

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	村城 正	法人・ 事業所 の特徴	ビリと落ち着いた過ごしやすい環境づくりを提供することで、状態が変化しても住み慣れた地域・在宅で生活し続ける事を支援しています。
事業所名	あすならホーム山の辺 多機能型ケアホーム	管理者	中井 達雄		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	1人	人	人	9人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	小規模多機能の毎週行っている会議の時間を調整し、いきいき100歳体操に来ている地域住民と交流する。サロン活動も行っていく	いきいき100歳体操の実施等地域の方が集まれる場としての役割は担えた。サロン活動の開催は出来なかった。	地域の方が集える場として機能しているが、現場職員が参加者と交流する機会がない	いきいき100歳体操に来ていただいている時は 出来る限り職員も参加していく。コロナ終息になれば地域の方との交流の場としてサロン活動をしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	あすならホーム山の辺の畑で季節感のある草花を育てる。桜の木を植える。	施設前に畑を作り、草花を植えたりしたが、常に気にかけて植え替えなどは出来なかった。桜の木は植えることが出来た。	花見などに行けない利用者にも季節を感じて欲しい	季節の花などの種をまいているが育たず 土作りから 利用者様を含めて取り組んでいきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	地域向け学習会をまた年2回以上行なう。地域の方が相談に来られた際に困りごとを聞き取る	地域向けの学習会は年間で6回行なえた。地域の方々からの相談や紹介などが増えてきた。	施設前を通りかかる方たちとの立ち話などが増え 施設の職員だと覚えてくれている。	1人でも多くの職員と地域の方との交流を増やし 気軽に来ていただけるような環境を作る。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新規相談時に在宅支援である事をしっかりお伝えし、自宅訪問日を確認し、自宅の環境を知る。元気なころの生活を知る取り組みは継続する	利用前の自宅訪問は新規利用全体の3割程度しか行えていない。また、状態が悪化する前の生活状況等の把握に時間が掛かる	病院からの利用受入れが多いため利用前の自宅訪問や、状態悪化前の情報が拾いにくい。以前の生活を聞き取る事が難しい。	利用が始まってからでもお話を伺い元気なころの生活など情報を聞き取る時間を作る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議を実施し、地域の困り事を聞き取っていく	新型コロナウイルスの影響もあり 運営推進会議の開催が延期になった。	北部地域包括との話の中では、開催出来るように取り組むと話せているため、地域へのお知らせを行なっていく	2023年5月以降コロナウイルスが5星になったら市役所と調節していく。
F. 事業所の	BCPの練り直しから有事の際にも地域の方が安心できる事業所になる	火災避難訓練、災害避難訓練を実施した。地域の方に参加して頂く事は出来て	コロナの事もあり地域の方を参加	火災避難訓練・災害避難訓練の実施に向けて コロナ終息後は地域

防災・災害対策	よう、新入職員を含めた避難訓練を行なう	いない。出来るだけ職員全員参加で実施していた。	するのが難しい。	の方にも呼び掛けて参加して頂く。
---------	---------------------	-------------------------	----------	------------------